

国立大学法人愛媛大学 令和4年度研究報告書

研究成果（概要）

本事業は、「概念型探求」の理論的枠組を援用して、「概念型読解」という読解プロセスを新たに提案した。「概念型読解」は主に探究的な学びの過程において資料を読む際に、読み取った具体的・個別的事象から、内容を抽象化・一般化し、概念的理解のかたちで表象する認知的プロセスである。本事業は小学校、放課後学習教室、児童クラブにおいて探求的な学びの場を構成し、児童の概念的読解の個人差や授業を通じた力量の変化について検討した。その結果、概念的読解の力量には大きな個人差が見られるが、幅広い児童に対して概念型読解を組み込んだ授業展開が可能であることが示唆された。

1. 研究課題と調査・取組内容

（1）具体的な研究課題

教科横断プロジェクトを通じた言語能力の育成とその効果検証

（2）研究課題に基づいて実施した調査・取組内容

本研究では、1) 国際バカロレアと概念型探究に関する検討、2) 放課後学習教室／土曜学習での実践研究、3) えりむ児童クラブさくらんぼでの実践研究、4) 附属小学校での実践研究、という4つの取り組みを進めた。当初予定されていた公立学校での実践は、今年度までに進めることが難しかったため、今後の課題としている。以下それぞれの取り組みについて内容を説明する。

1) 国際バカロレアと概念型探究に関する検討と育むべき読解力の概念化

国際バカロレアをどう読解力育成に活かすか

国際的に評価の高い教育課程の枠組みである国際バカロレア（以下 IB）は、読解力を学習者の生活に位置づけられた転移可能な汎用的能力や学習態度として先行して概念化しており、本邦の公教育における課題となっている「評価し、熟考する能力」を高めるために適していると考え、本事業では、国際バカロレアについて文献及び有識者からの知識提供に基づいて、読解力向上にどのように活かせるか検討した。

その検討プロセスの中で IB そのものは、学校全体での取り組みが不可避であり、その実現のためには教育委員会レベルで地域教育の方針を検討しなおす必要もある。本事業で IB のカリキュラムを検討したとしても全国の学校が即座に取り入れることができる性質のものではないことが明らかになった。

他方で、近年の IB 認定校では、H. Lynn Erickson と Lois A. Lanning が提案している「概念型の課程と指導（Concept-Based Curriculum and Instruction）」（以下 CBCI）の考え方と指導法が世界中の IB 認定校に受容されてきていることも明らかとなった。この CBCI は、さらに現在、後継の枠組みである「概念型探究（Concept-Based Inquiry）」（以下 CBI）への発展している。CBI は、Carla Marschall と Rachel French が CBCI の考え方を踏襲しながらも、単元案計画の手順が具体的な教授方略の豊富な選択肢とともに提案し、学習目標としての概念的理解に6段階のステップで到達する

ことを支援するものである。現在、CBIはIB認定校の初等教育プログラム（PYP）や中等教育プログラム（MYP）等を担当する世界中の担当教師によって、採用されている。

CBIはIBのカリキュラムそのものではないが、IBよりもカリキュラムデザインと其中での指導法を中心として枠組みが形作られているため、学校全体のあり方や教育委員会の方向性を変えることなく、学級単位から取り組みを始めることができると、本研究では考えた（ただし、CBIも本来は学校単位で取り組むことが探究のための学習環境作りに最も効果的であることは変わらない）。そこで本研究は、Marschall & French（2018）やLanning & Brown（2019）を中心に文献研究を進め、概念型探究の理論的理解を進めることとした。以下では、CBIの概要を説明した後、それを読解力向上というねらいに活かす考え方を説明する。

CBIの概要

本節では、CBIにおける単元設計の概要を説明する。以下では、CBIにおける単元設計の手順を一例として示したい。CBIでは、最終的に学習者に到達してほしい学習到達目標を概念的理解というかたちで表現し、その到達のために逆向き設計（Wiggins & McTighe, 2005）で探究的な活動を構成していく。それらの活動を構成する最小の単位が概念である。

概念とは、具体的な対象を一般化して示すカテゴリを指している。例えば、国語科で扱う文章では、個別の筆者が特定の文章として書いた「スイミー」「大造じいさんとガン」「案内の手紙を書こう」等があるが、これらは具体的な事例であると言える。そして、これら具体的な文章事例を「物語文」、「論説文」、「説明文」などとカテゴリー化したものが概念である。また様々な物語文においてある程度共通して、最初の始まりでは、場面設定や登場人物の登場などがあり、物語の中盤では驚きが含まれるようなイベントや問題が起こることが多くあり、そして物語の終盤で、それらに解決がもたらされるという特徴がある。このような様々な具体的な物語に共通した特徴を表現するためには、「はじめ」「なか」「おわり」という展開を区切る概念や「課題」や「解決」といった物語中のイベントを指し示す概念が国語科では導入されている。

概念的理解とは、以上のような概念を複数用いて、学習者が生活の中で活用することができるものとして明文化したものである。概念型理解とは、別の観点から言えば、逆向き設計における「永続的理解」に相当するものであると言える。例えば、上記の概念間の関係で言えば、「物語文ははじめ、なか、おわりで作られていて、はじめには登場人物や場面設定が説明され、なかでは課題が引き起こされ、おわりでは課題が解決される」というように明文化することができる。これが物語文に関する概念的理解の一例である。このように概念間の関係を明確にすることで、学習者このあとの他の物語を読解する時だけではなく、自ら物語を生成する機会においても、過去の学習内容を活かすことが可能になる。なお、概念型探究は、このような概念的理解を教師がまとめるのではなく、「事例研究を通して、学習者自身がまとめる」といった帰納的な学習過程を必須としている。

CBIによる単元設計手順1：単元名と概念レンズの設定

単元設計の手順としては、最初に、「単元名の設定」、「概念レンズ」を設定する。単元名はそれ自体が学習者を新しい学びに招き入れる機能をもたせる必要がある。つまり単元名が動機づけや学習者の先行経験を惹起するものである必要がある。

本報告書では、小学校2年生の国語において、物語の構成要素を構造的に捉え、自分たちの物語産出に活かす単元を例として以下で図示しながら説明したい。実際に本事業で進めた授業実践ではなく、CBIの授業設計の手順を示すためのモデル単元である。なお、この枠組はMarschall & French（2018）の提案によるものである。下表は本モデル単元「みんなの大好きなお話の秘密」の単元名、教科名、概念レンズ等の基本的な事項を示したものである。概念レンズとは、様々な観点から捉えられる事象について、どのような観点から特にこの単元では理解を含めていこうとするのかを1つないし2つのマクロな概念から特定するものである。IBでは、機能、パターン、秩序、バランス、進

歩、進化、変化、同一性、相互作用、成長、システム、特徴といった概念が取り入れられる。

例えば、物語を扱う今回のモデル单元では、その概念レンズを登場人物の感情やそれを伝達する表現手法などに設定することもできるし、登場人物間の関係にも当てることができる。また筆者の人生と作品の関係に当てることができる。様々な切り口がある中で、今回のモデル单元では要素や構造という側面から物語を捉えることをねらっている。

单元名	みんなの大好きなお話の秘密	教科名	国語
概念レンズ	要素・構造	教師	富田英司
学年	2年生	期間	8時間程度

このモデル单元の概要は、次のとおりである：「みんなが好きな物語のひみつって何だろう」という問いのもと、子どもたちは魅力的な物語に共通する特徴を探ります。このユニットでは、まず「スイミー」において、作者がどのように物語を魅力的にしているかを調べます。そして、物語の問題とその解決が、物語を魅力的にするために最も重要な役割を担っていることを発見した後、その発見を一般化するために他の物語を調べます。最後の課題として、物語の構造に関する概念的な理解を、児童自身の物語作成に応用します。その際、物語の要素が効果的に使われているかどうかをチェックリスト等で評価します。

CBI による单元設計手順 2：構成要素と概念の特定

单元名、教科名、概念レンズ等の基本的な事項が定まった後、「知識とスキルの構成要素」及び「構成要素に含まれる概念」をウェビングマップによって探索する。下図の单元ウェブでは、モデル单元「みんなの大好きなお話の秘密」を想定して、4つの構成要素を設定している。Lanning & Brown (2019) は、概念型探求においては読解を中心に据えた单元案は例外なく、テキストの理解、テキストへの応答、テキスト批評、及びテキスト産出というステップを踏まなければならないと主張している。本モデル单元もその提言に従って、下図の单元ウェブを構成した。読解以外の学習内容においては、その限りではなく、構成要素も4つ程度を目安にある程度のばらつきがある。

構成要素 1：テキストを理解する			構成要素 2：テキストに応答する	
<ul style="list-style-type: none"> 物語 要素 登場人物 場面設定 問題 解決 	<ul style="list-style-type: none"> いつ、どこ 時間と場所 主人公 写真 イラスト 		<ul style="list-style-type: none"> 感想 感情的な反応 魅力 引用 	<ul style="list-style-type: none"> 要約
		单元名と概念レンズ		
		みんなの大好きなお話の秘密 概念レンズ：要素・構造		
構成要素 4：テキストを産出する			構成要素 3：テキストを批評する	
<ul style="list-style-type: none"> エピソード 経験 自己評価 チェックリスト 	<ul style="list-style-type: none"> 作文 はじめ なか おわり 場面設定 問題 解決 		<ul style="list-style-type: none"> 比較 共通要素 はじめに なか おわり 	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッション・ルール 感想の伝え方 イラスト

CBI による単元設計手順 3：概念的理解の設定

単元ウェブに列挙された概念は、次の設計手順において、一般化可能な概念的理解の主要な部品として活用されることになる。概念的理解を構成する最初のステップは、いくつかの概念をレベル1動詞と呼ばれる、概念間の単純な関係を示す動詞で結びつけることである。レベル1動詞の例としては、“Affects, Impacts, Influence, Is, Are, Have”といった動詞が挙げられる。上記の単元ウェブ構成要素1で言えば、「物語には登場人物、問題、解決などの要素がある」というように概念動詞を単純に結びつけることができる。次のステップは、レベル1動詞をより詳細な関係を示す動詞に置き換えたりすることで、概念間の関係を「なぜどのように」という観点で精緻化する。さきほどの例で言えば、「多くの物語では、登場人物が問題に出会い、それを解決するという展開が採用されている」というように精緻化することができる（レベル2）。最後のステップでは、「だから何なのか」という観点で、さきほど精緻化した概念間関係をどのように活用することができるのかを明確化する。さきほどの例で言えば、「物語の作者はしばしば登場人物が問題に出会い、それを解決するという展開を採用することによって物語を魅力的なものにする」というように記述することができる。最後の一般化された概念的理解に学習者が到達することで、学習者は自らが物語を書き綴るときにも活用することが可能になる。

なお、上述のプロセスは教師が授業設計を行うときに踏襲すべきものであるが、概念型探求に参加する学習者も同様のプロセスでそれぞれが独自の表現で概念間の関係を一般化することになるが、学習者に一般的に期待されるのはレベル2までである。

CBI による単元設計手順 4：ガイド質問の設定

次の手順では、学習者が概念的理解に到達するために必要なガイド質問を設定する。学習者に理解してほしい「概念的理解」を設定し、複数の事例を学ぶ過程で「本質的な問い」によって生徒の看破を導く点はCBCIと同じである。

下表は、本モデル単元の中で学習者に到達してほしい概念的理解を左側に、それらの概念的理解を導くためのガイド質問を右側に示している。概念的理解は単元について5～9個、ガイド質問は1つの概念的理解に対して3～5問設定するのが適切であるとされている。ガイド質問それぞれに付与されたアルファベットは、質問の種類を示しており、Cが概念に関する質問、Fが事実に関する質問、Dが論争的な質問である。論争的質問は学習者が現在持つ信念や理解を揺さぶる必要があるときに設定されるが、全ての概念的理解に設定する必要がある訳ではない。それに対して、概念的質問と事実質問はどの概念的理解に対しても必須である。最初に事実に関する理解を深め、次に様々な事例をおしなべて考えたときに看破される概念的理解を促すための概念的質問が用いられる。

概念的理解：単元に5～9個	ガイド質問：1つの概念的理解ごとに3～5問：(C) 概念、(F) 事実、(D) 論争
1.物語の登場人物の中で、物語の展開の中心的な役割を果たすのが主人公です。	1a.物語にはだれが登場しましたか？(F) 1b.物語の中で最も大事な登場人物は誰ですか？(F) 1c.物語の中で最も大事な登場人物を何と呼びますか？(C) 1d.お話にはどんな種類の登場人物が出てくるのでしょうか？(C) 1e.主人公はどうやって見つければいいのでしょうか？(C)
2.設定は、登場人物がいつ、どこで何をしているかを読み手に教えてください。	2a.物語はどんな場所から始まりましたか？(F) 2b.物語が始まったとき、登場人物はそこで何をしていたのでしょうか？(F) 2c.物語のはじめにはどんなことを話しますか？(F) 2d.物語のはじめには、いつもどんなことが話されますか？(C) 2e.どのお話でもいつも主人公について話されることとはどんな何でしょうか？(C)

3.問題を経験し、それをうまく解決することで、読者は物語に惹きつけられる。	3a.物語の中で何が起こりましたか？(F) 3b.このお話であなたにとって一番びっくりしたのはどの部分ですか？(F) 3c.物語の中で主人公はどんなことに困りましたか？(F) 3d.語り手はどのように話を盛り上げるのでしょうか？(C) 3e.もし問題がなかったら、お話はおもしろくなるのでしょうか？(D)
4.おもしろいお話では、難易度の高い問題が、思いがけない解決策によって見事に解決されます。	4a.おもしろい物語の中で、主人公はどのような問題にであうでしょうか。(F) 4b.おもしろい物語の中で、問題はどのように解決されるのでしょうか？(F) 4c.おもしろいお話とそうでないお話の違いは何ですか？(C) 4d.おもしろいお話はどうしておもしろいだと思いますか？(C)
5.はじめ、なか、おわりで構成される物語は、内容を効果的に伝えることができます。	5a.このお話を3つに分けるとしたら、どう分けますか？(F) 5b.はじめでは、どんなことが語られていますか？(F) 5c.なかでは、どんなことが語られていますか？(F) 5d.おわりでは、どんなことが語られていますか？(F) 5e.はじめ、なか、おわりには、どんなことが必ず入っているのでしょうか？(C)

CBIによる単元設計手順5：アセスメント

本来はここでアセスメントのために、クリティカルコンテンツを知識とスキルの両面から設定し、知識、概念的理解、スキルの3側面においてそれぞれ総括的評価のためのパフォーマンス課題とそれに対応して用意されるアセスメントツール（ルーブリック等）を整理する手順が入る。しかし、本報告書の目的から鑑みて詳細に過ぎるため、詳細は省略する。

CBIによる単元設計手順6：ラーニング・エンゲージメントの設定

ここでは授業展開にあたるラーニング・エンゲージメント設定の手順について説明する。概念型探求は、他の概念型学習の枠組みと比較して、始動、焦点化、研究、体系化、一般化、転移という6つの段階から授業展開を構成する点に独自の特徴がある。

始動段階は、学習者の既有知識と単元内容を関連付け、動機づけを高め、現在生徒が持つ考え方を知るという役割を持つ。動機づけの方略は、意見に基づく方略、体験の方略、議論に基づく方略の3つに大きく分類することができる。この段階は、どの単元を作る際にも必ず必要であり、単元の最初だけではなく、生徒の動機づけが下がったとき等にも随時取り入れることが必要である。この段階で使われるガイド質問は、事実質問、概念的質問、及び論争質問である。

焦点化段階は、単元を構成する重要な概念、すなわち駆動概念について、具体的な事象の区別を含めて理解を確かなものにするのがねらいである。そのためにいくつかの概念形成方略が利用される。また概念レンズについてもこの段階で導入される。概念レンズは、様々な教科や領域で繰り返し出現する領域を超えたマクロな概念であるのに対し、駆動概念は領域を超える場合もあるが、領域固有の内容を含むことが一般的である。学習が進むにつれ、生徒は新しい概念を導入するため、概念形成方略は1つの単元で何度も活用される。概念レンズを含めて4つから7つの駆動概念を単元の最初に導入することが推奨されている。この段階で使われるガイド質問は、事実質問と概念的質問である。

研究段階は、事例、実験、調査や経験に基づいて事実を収集することが中心的な活動である。同時に、探求の中で必要となる汎用のスキル（観察、ノートテイキング、インタビュー、表計算、動画作成、インターネット検索等）と教科に特化したスキル（科学実験の計画、地図のよみ方、絵筆の使い方、楽器の演奏等）を獲得することも期待されている。この段階で取り入れられるガイド質問は事実質問である。

体系化段階では、事実と概念の両方のレベルにおいて思考を体系化し、収集した事実を視覚的手法

等によってまとめ、そこから共通したパターンを見出すことがねらいとなっている。この段階で使われるガイド質問は、事実質問と概念的質問である。

一般化段階では、個別の事実から抽象的な概念的理解を引き出すことが主にねらわれている。具体的な事例と概念の間に繋がりを見出し、一般化可能な概念的理解を明示的に言語化し、その妥当性を証明し、他者に伝える活動をおこなう。この段階で使われるガイド質問は概念的質問である。

最後の転移段階のねらいは、一般化された概念的理解の妥当性を検証・証明すること、一般化された概念的理解を新しい事象や場面に適応させること、経験や理解を活用して予想や仮説を立てること、そして学習者自身の学習に基づいて有意義なアクションを起こすこと等である。この段階で使われるガイド質問は、事実質問、概念的質問、及び論争質問である。

下表は、モデル単元におけるラーニング・エンゲージメントの展開例である。なお、左列のKUDフォーカスとは、K：知識、U：理解、D：スキルのそれぞれについてアセスメントの対象となる学習対象の分類を示したものである。

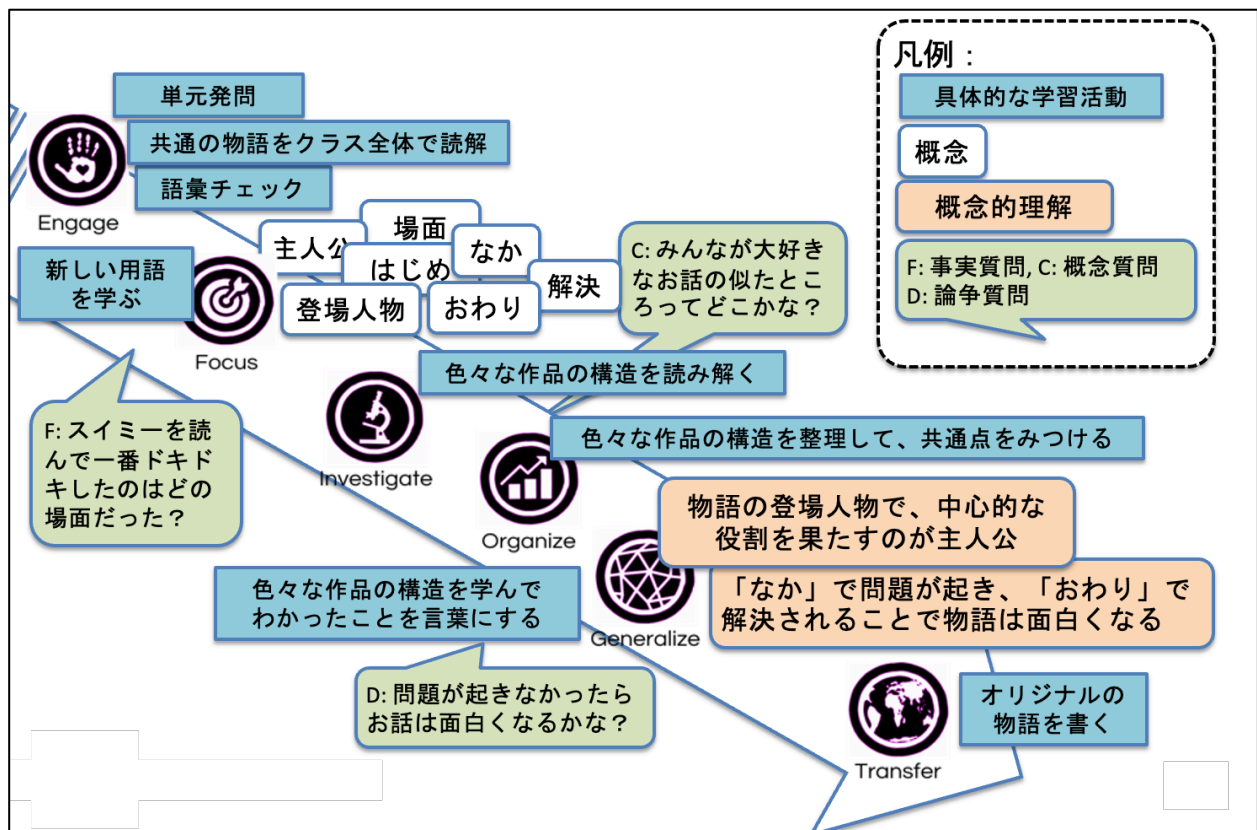
KUD フォーカス K：知識、U：理解 D：スキル	アセスメント方法	学習活動 (s)
<p>K：語彙の確認</p> <p>U1：物語の登場人物の中で、主人公は物語の展開において中心的な役割を担っている。</p> <p>U2：物語の中で登場人物がいつどこで何をしているかを説明する「設定」は、主人公に問題をもたらす。</p>	<p>読む前に、スイミーにある不明な単語に印をつける。</p> <p>ワークシート：空欄に物語の要素の名前とその意味を記入する。</p>	<p><始動段階></p> <p># オープニングクエスチョン：なぜ作者はおもしろい物語を作ることができるのか？→既習の物語でおもしろいもの、1つの物語で2つの書かれ方があるものを比較する（適切な物語選択）</p> <p># 最初の読書に先立つ活動 スイミー」などの一般的なテキストを読みます。読む前に、絵から話の内容を推察するための話し合いをする。また、読み合わせの前に語彙のチェックも行う。</p> <p># テキスト理解のためのクラス全体ディスカッション 1a.物語に登場する人物は？(F) 1b.物語の中で最も重要な役割を担っているのは誰ですか？(F) 1c.物語の中で最も重要な登場人物をどのように表現しますか？(F) 2a.物語の始まりはどこなのか (F) 2b.物語が始まったとき、彼らはそこで何をしていたのでしょうか？(F) 2c.物語の冒頭で、何が説明されていますか？(F)</p> <p>質疑応答を通じて、キャラクターや設定などの基本的な概念を理解する。</p>

	<p>画用紙に、スイミーのイラスト、一節の引用を、説明付きで描く。</p>	<p><焦点化段階> # 好きな場面を共有する 子どもたちは、スイミーのイラストに短い引用を添えて、最も印象的な場面をピックアップする。可能であれば、なぜその場面がなぜ一番好きなのか、その理由も書く。</p> <p># ギャラリーウォーク：一面に貼るのではなく、カテゴライズして貼ることで、一般的理解に繋げやすくする。生徒の作品を壁面に展示し、一般的な文章が言葉や絵で人を惹きつける力を持っていることを認識させる。</p>
	<p>他の児童がどんな場면을面白いと思うかデータを収集する。</p>	<p><研究段階> # どんなところが面白いのかを探る 描かれた絵をもとに、児童は「どうしてこの物語がおもしろいのか?」「人気のある物語の秘密は何だろうか?」という問いに取り組む。その質問に答えるために、児童は、物語のどの部分を選んだのか、なぜそうしたのかを調べるといった新しいタスクが紹介されます。生徒たちは、よく選ばれているシーンの数を先生と一緒に数えていきます。</p> <p>3a.物語の中で何が起こったか?(F) 3b.あなたにとって最も衝撃的なのはどの部分ですか?(F) 3c.物語の中で主人公はどのような悩みを抱えていますか?(F)</p>
	<p>クラス全体のディスカッションを通して人気がある物語の特徴を導き出す。</p>	<p><体系化段階> # どんなところに惹かれるのかを探る(続く) 教師はクロス表を作成し、生徒が物語の中で最も印象的なシーンとして各パートを選んだ頻度を書き込みます。また、それらの場面の共通点は何か、なぜその場面が印象的なのかを質問する。クラス全員での議論を通じて、<u>物語の中で最も印象的だったのは、問題とその解決に関連する部分である</u>という結論に導く。</p> <p>3d.語り手はどのように物語を盛り上げるか?(C) 3e.問題がなければ、物語の結末は読者にとっておもしろいものになる?(D)</p>
<p>U3: 問題を経験し、それをうまく解決することで、読者</p>	<p>文章完成のためのワークシート#1</p>	<p><一般化段階> # ミクロな一般化のための文完成 物語がどのように読者を惹きつけるかを一般化するた</p>

<p>は物語に惹きつけられることができる。</p>		<p>めの文章を完成させる。</p> <p>「物語の中で読み手が一番おもしろいと感じるのは（ ）です」</p>
<p>D: 物語を分解する</p>	<p>ワークシートに、物語の構成要素の空欄を埋めていきます。</p>	<p><研究段階> #人気のある物語の要素を探る</p> <p>最初の物語（スイミー）で見つかった結果は、他の文章にも適用できるのだろうか？この問いに答えるために、生徒たちは自分たちで選んだ他のおもしろい物語を探ります。学校の図書室から2冊の絵本を選び、その物語にどんな要素があるのかを調べます（ブックリスト利用し、読んだものにチェックをする）。</p>
		<p><体系化段階> #人気のある物語の要素を探る（続き）</p> <p>生徒が記入したワークシートは、それぞれの物語に問題と解決の要素があるかどうか、生徒自身がチェックします。</p> <p>4a.人気のあるお話では、主人公はどのような問題に遭遇するのでしょうか？(F) 4b.人気のあるでは、問題はどのように解決されるのでしょうか？(F)</p>
<p>U4：おもしろい物語には、難易度の高い問題が、思いがけない解決策によって見事に解決されることがあります。</p>	<p>文章完成のためのワークシート #2</p>	<p><一般化段階> # 人気のある物語の要素を探る（続き）</p> <p>物語がどのように読者を惹きつけるかを一般化するための文章を完成させるよう求められる。</p> <p>・面白いお話は（ ）。</p> <p>4c.人気のあるお話はなぜ魅力的だと思いますか？(C) 4d.人気のあるお話とそれ以外のお話の違いは何ですか？(C)</p>
<p>D：物語構築</p>	<p>書き上げた物語とチェックシート</p>	<p><転移段階> # 自分の個人的なお話をクラスで話す</p> <p>児童が授業や家庭で体験したことから、登場人物、設定、問題点、解決策などの物語要素を盛り込み、物語を作る</p> <p>5a.物語を3つに分けるには？(F) 5b.「はじめ」では、どのようなことが語られています</p>

		か？(F) 5c.「なか」では、どんなことが語られていますか？(F) 5d.「おわり」では、どんなことが語られているのでしょうか？(F) 5e.はじめ、なか、おわりには、物語を構成するどのような要素が置かれているか？(C)
U3 & U4	個人的な物語のクラフトレポート（=学んだことを自分の作品どう使ったかを説明したレポート）	<振り返り> # 個人的な物語のクラフトレポート 個人的な物語について、クラフトレポートを書いてもらいます。授業で習った要素をどのように取り入れて書いたかを口頭などで説明します。

下図は上表で示したラーニング・エンゲージメントの展開を単純化したものである。



以上が CBI による授業設計の基本的な考え方に関する説明である。以下では、この概念型探求の枠組みをどのように読解力向上という文脈に位置づけたか説明する。

「概念型読解」の定義

概念型探求で設定される学習環境で学ぶことにより、学習者は複数の事実から原理や定義、原則等を帰納することができ、学んだことを次の機会に主体的に活かすことが可能になる。豊富な情報をもとにテーマに沿って学びを進める探究の文脈では特に、このような帰納的な学びがあることによって、学習者は複雑なことを効果的に理解し、そして理解したことをその後のアクションへと結びつけ

ることができる。そのため、読解においても概念的な学びのプロセスを中核に据えることができれば、探求的な学びをさらに後押しすることが可能になる。そのようなことから、本研究は、概念的読解を中核とする読解を概念型読解と呼ぶことにして、以下のように定義付けをおこなった。

概念型読解とは、「説明文や論説文に含まれる事実や出来事から、一般化可能な命題を抽出する読解の過程」である。例えば、レジ袋の有料化について述べる説明文において「その後、レジ袋の利用は半分に減ったのですが、同じ形のプラスチックの袋の売上は2倍以上に伸びたそうです」という文があったとする。この文は、実際に日本で起こった事実を示しており、通常はその事実を読み取ることが多い。概念型読解は、このようなときに必要に応じて時間や場所を超えた一般的な理解として表象しなおすプロセスを含んでいる。例えばこの文面の場合、概念型読解が出来れば、学習者は「プラスチック利用を減らすと、その分、プラスチックの利用を他の機会において増やすことがある」という一般的な理解として捉えなおすことができる。今回の例の場合、この一般化が妥当なことかどうかは、この一般化を支持する事例が他にも観察されることが必要であるが、このような一般化をおこなうことによって、学習者は複数の事実から原理や定義、原則等を帰納することができ、学んだことを次の機会に主体的に活かすことが可能になる。そのようなことから、概念型読解は学習者のエンジェンシーが問われる21世紀型の新しい学力において中核を成す学びの過程であると位置づけられる。

2) 放課後学習教室での実践研究

実践① 愛媛大学放課後学習教室／土曜学習

愛媛大学教育学部では、近隣の小学生を対象にした無料の学習教室であり、教員養成課程の学生が参加する地域連携実習の1つとしても位置づけられている。本研究では「プラごみ激減プロジェクト」というコースを立ち上げて、大学近隣の小学生が毎週火曜日の放課後にキャンパスに集まり、授業に参加している。継続的に参加した児童は5名（4年生3名、6年生2名）であった。

この取り組みでは、1学期においてはプラスチックごみのリデュース、リサイクル、リユースについて最新の知見をウェブ記事の読解を通して学んだ。読解活動においては、文章の詳細を読み込んでいくのではなく、文章の中心的なアイデアをつかむための方略を学び、学んだ方略を活用するよう促した。最初の時間のアセスメントは、A4用紙2枚（約2千字程度）のインタビュー記事を読んだ。この文章は、ひとりの力で何かを変えることは難しい一方、集団の中の例えば3人がなにかを言い出すと、何かを変える力になりうるという趣旨のことを、「三人、市虎を成す」という故事成語や書店での出来事を引き合いに出しながら述べているものだった。この時、利用していたワークシートでは、以下の3つの問いを設定し、当該記事を読んだ後、その回答を筆記で求めた。

- (1) 文章を読むときにどんなことに気をつければよいと思いますか。
- (2) 文章を読んでみましょう。どんなことが書いてありましたか。
- (3) この文章を書いた人はどんなことを伝えたいのでしょうか。簡単にまとめましょう。

そこでの参加児童の学びのプロセスを例証するために、最も継続的に参加した児童Aと児童Bについて回答をいくつか紹介する。下表は、第1回開催時（6月9日）に実施されたアセスメントシートの回答内容である。この表をみると、児童A・Bは、(2)と(3)への回答から、筆者の書いた中心的な内容ではなく、筆者の心情に焦点を合わせて行間を読み取っている。この傾向は、公立小学校の国語科では、文章を構造的に読み取るよりも、1つ1つの文章の内的世界に入り込み、筆者や登場人物の心情に寄り添うような指導が中心になっていることが反映しているのではないだろうか。それに対して、児童Cは(3)の問いにおいて、筆者が述べたいことを自分自身の表現に置き換えて、適切かつ簡潔に捉えることができている。

第1回（6月9日）のアセスメントシート回答内容

	(1)読む時に気をつけること	(2)文章の要約	(3)筆者の言いたいこと
児童A (4年)	大切なところをしっかりと書く	みんなをまもりながらかんきょうを大切にしている	ぼくたちのくらしをまもりたいという気持ちで書いている。
児童B (4年)	大切なことがかいてあるからていねいに、読む	(記述なし)	この文章を書いた人は、このはつげんをひろめたくて、書いたんだと思います。
児童C (6年)	<ul style="list-style-type: none"> 要点をまとめる 筆者の伝えたいことを考える 分からないこと、知らないこと、言葉は調べる 	地球温暖化や海洋汚染などのことも、一人からどんどん広めていくことで、変わってゆく。	大きな問題も、小さな一歩から始めていこうということ。

この最初のアセスメントの後、プラスチックごみのリデュース、リサイクル、リユースに関する様々な記事を、毎回1～2点、第1回と同様の観点で文章を要約し、筆者が主に伝えたい点を見つけて簡潔にまとめる授業を繰り返した。第7回までに読み進めた文章を改めてまとめたのが以下の表である。この表は、リデュース、リサイクル、リユースの長所・短所・気になることを箇条書きにしてまとめる PMI と呼ばれる思考ツールを用いて整理したものである。この表自体は教師が準備をしたが、各セルに書き込まれている内容は、参加児童自身の言葉である。

	リサイクル	リユース	リデュース
長所 Plus	<ul style="list-style-type: none"> 小さくすることで何度でもできる 	<ul style="list-style-type: none"> ものを安く手に入れることができる 二酸化炭素の排出を減らすことができる ものを再生する大規模施設がいらない ものを大切にする学びになる 必要以上の生産を抑える 	<ul style="list-style-type: none"> ごみがへる 石油を使わなくていい
短所 Minus	<ul style="list-style-type: none"> くり返すと品質が悪くなる お金やエネルギーがかかる できる場合がかぎられている 	<ul style="list-style-type: none"> 新しいものを買う時よりも修理するお金のほうが高い 産業や経済成長が止まる 	<ul style="list-style-type: none"> へった分他のプラスチックの利用やつくる量がふえる 地球かんきょうに悪い
気になること Interesting	<ul style="list-style-type: none"> 長所に比べて短所が多い お金がかかる 長所が短所につながっている 自分からすすんでできる 	<ul style="list-style-type: none"> リサイクルよりもいい 無だがはぶける お金がかかる 自分からすすんでかたんにできる 地球にやさしい 	<ul style="list-style-type: none"> リサイクルやリユースと違ってゴミにならない リサイクルやリユースと違ってエネルギーやお金を使わない

この第7回では、上記の表をさらに児童自身の言葉でまとめて概念的理解を促すために、以下のようなワークシートを用意し、プラスチックごみのリデュース、リサイクル、リユースについてそれぞれの長所と短所が各児童によって明確になるよう足場作りをおこなった。

氏名 ()			
まとめのまとめ： 3Rはそれぞれどんな特徴があるのか簡単にまとめよう			
	リサイクル	リユース	リデュース
長所			
短所			


上述のとおり、左の表を用いて、これまでの読解で明らかになったことを児童自身の言葉で短くまとめたあと、これを文章完成法によって、さらに端的にまとめる活動を取り入れた。以下のスライドがその時に用意したものである。このスライドと同等の内容をワークシートにして配布した。この文章完成法では、それまでのリデュース、リサイクル、リユースの長所と短所をまとめることに加えて、私たちがプラごみを減らすためにどの方法が効果的であるか、それによって、私たちが選択すべき方法はどれかと

いうことも含めて明示的に書くようにした。これら指導上の手順は、概念型探求の考え方や典型的な指導方略にを参考に、概念型読解の力量を伸ばすための手法として、本研究で考案したものである。概念型探求では、児童自身による主体的活動においても、その足場づくりを1つ1つ丁寧におこなっており、そのことによって児童が自分の考えを自分の言葉で表現し、活用することができるようになることが経験的に証明されてきている。

ただし、この第7回の時点では、まだ4年生児童の概念型読解の力量は十分に高まっていないと考えられる。以下の写真は、文章完成法を用いたワークシートに児童Aが回答した内容を示している。当初この児童Aが書いたのは、長所や短所が多い少ないといった、概念的な理解の中身が含まれていない表面的な記述であった。その後、他の児童を含めた教室でのやりとりを通して、これまでまとめた表を適切に反映したものへと修正していることが見て取れる。

一言でいえば、どうまとまるかな？

- リサイクルは () だけど、()
- リユースは () だけど、()
- リデュースは () だけど、()
- これらをまとめると、プラを減らすには () が効果的です
- 上のようなことから、私たちがプラごみを減らすには、() が大事です

 EHIME UNIVERSITY

- リサイクルは ~~(長所が少ない)~~ だけど、~~(短所が多い)~~
さいりようができる 品しつがわるくなる
- リユースは ~~(長所が多い)~~ だけど、~~(短所が少ない)~~
かんきょうと人間にとって大七かけいざいせいちゅうが止まってしまう
→ ずっと大七刀に使う
- リデュースは ~~(長所が少ない)~~ だけど、~~(短所も少ない)~~
ごみがへる かんきょうにわるいせいぎょうがある
- まとめると、プラを減らすには (**リユース**) が効果的
- これらのことから、プラごみをへらすためには、
() が大事

以下のアセスメントシートは、第22回の教室において児童らが自分たちの活動内容を紹介する動画のナレーションを作成するときに読んだ「台本の作り方と構成のコツ」という文章に対応して作成したものである。この文章では、動画作成などにおいて台本が必要であり、台本はひな形にそって書かれること、そして大きく分けて2つのひな形があることが伝えられている。

愛媛大学放課後学習教室	2023/1/31
<p style="font-size: large; font-weight: bold;">「台本の作り方と構成のコツ」</p> <p style="text-align: center;">氏名 ()</p> <p>(1) この文章はいくつかの部分に分けることができます。どんなふうに分けますか？</p> <p>(2) 台本を書くために、この文章で一番大事な部分を2つ挙げてください。</p> <p style="margin-left: 40px;">③</p> <p style="margin-left: 40px;">④</p> <p>(3) どうして上の2つを選んだか理由をこたえてください。</p> <p style="margin-left: 40px;">③</p> <p style="margin-left: 40px;">④</p> <p>(4) この文章のうち、台本を書くために覚えておきたいことを短くまとめよう。</p> <p style="margin-left: 40px;">・ 台本を書くときには (ア) にそって書くと書きやすい。</p> <p style="margin-left: 40px;">・ 1つめの (ア) は (イ) を大事にする書き方で (ウ) の順に書きます。</p> <p style="margin-left: 40px;">・ 2つめの (ア) は (エ) を大事にする書き方で (オ) の順に書きます。</p>	

下表は、この台本に関するアセスメントシートへの回答内容である。文章完成法の形式を採用しているため、難易度は多少低くなっていると考えられるが、どの児童も適切に内容を捉えていることがわかった。

第22回（1月31日）のアセスメントシート（4）の回答内容

	ア	イ	ウ	エ	オ
児童A	ひな形	きおくにのこること	要点、詳細、要点	具体例	要点、理由、具体例、要点
児童C	型	要点	要点→詳細→要点	具体例	要点→理由→具体例→要点
児童D	型	記憶に残ること	要点→詳細→要点	説得力	要点→理由→具体例→要点

これらの授業記録より、当初は中心的なアイデアとそれ以外とを区別したり取捨選択したりすることに困難を感じ、要約をする際にも記事の内容の羅列になりがちだった児童Aが、1月の下旬におこなったアセスメントでは、概念的読解が遂行できるようになっていることが確認できた。



その後、この実践では、児童が主体となって地域の課題に取り組む授業の開発を並行してねらって進めた。特に2学期以降は愛媛大学のキャンパス内のプラスチックごみの削減やプラスチック利用そのものを減らすためのイベントを学内外で取り組んだ。上の写真は、児童が企画・運営した学内のマイボトル利用促進キャンペーンの場面である。愛媛大学SDGs推進室と愛媛大学生協の協力を得て、子どもたちとのじゃんけん大会に勝った大学が好きな色とデザインのマイボトルを入手することができ、モニターとしてアンケートに大学生が協力するという取り組みであった。

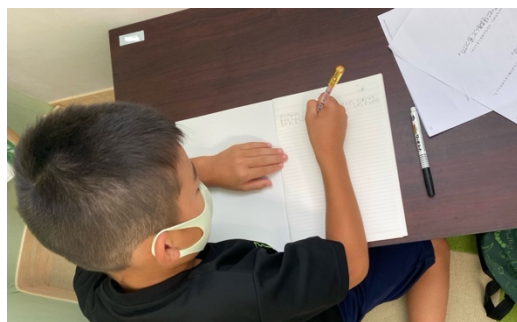
これらの活動を通じて、児童主体の活動を通じて、児童が様々な資質・能力を育む機会を設けることができたとは言えるが、その反面、イベントの企画や運営には時間や労力が多く求められるため、それらの実践に取り組みながら有機的に読解活動の時間を位置づけることに成功したとは言えない。週1回1時間30分程度の活動時間では読解活動と児童中心の活動を同時に進めるには時間が足りないため、週2回の開催は必要であると考えられる。また、この教室に参加した児童は、読解力が高い児童がほとんどであったことから、読解力に課題のある児童へのアプローチはこの実践フィールドでは進めることができていないと言える。

実践② えりむ児童クラブさくらんぼ

探究的な活動を通した読解力育成を児童クラブという課外活動で実施できないか検討するために、伊予市の私立さくら幼稚園が運営するえりむ児童クラブさくらんぼに協力を依頼し、夏休み中の探求活動を実施した。この児童クラブは地域の公立小学校に通う子どもが放課後利用するものであり、その多くは就学前にこの幼稚園に通っている。また、幼稚園はSDGs達成を意識した活動を様々な形で既に取り組んでいて、愛媛大学の多くの教員が日常的に連携している。この児童クラブには30名ほどの児童が参加しているが、夏休み中はそれぞれの都合で必要なときのみ参加している。子どもの自律性を重視していることから、今回取り組んだプラごみに関する様々な活動にも、子どもたちが参加したいと思ったときに参加している。

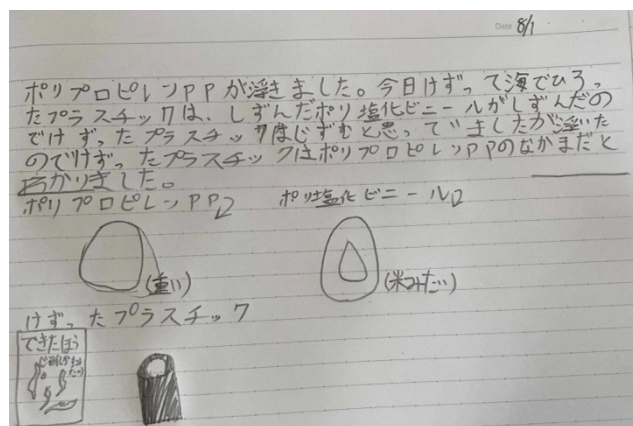
この探求活動では、プラごみをテーマにした研究をおこなうこととした。具体的には、海のマイクロプラスチックを回収する方法を考えて、夏休みの終わりの発表会で提案することを活動内容とした。それに先立って、読解力のアセスメントをおこなった。アセスメントでは、1,100字程度のウェブ記事を子どもたちの習熟している漢字や語彙に合わせて修正したテキストを用いた。このテキストを読んだあと、(1)この文章にはだいたいどんなことが書いてありましたか、(2)この文章は

なにを一番伝えたいのでしょうか。自分のことばで短くまとめましょう、(3) 一番伝えたいことを見つけるために、どんな工夫をしましたか、といった問いに回答するよう依頼した。回答した7名のうち、1名は具体例ではなく、一般化可能な抽象化されたかたちで、概要をつかむことができた。このことから、文章に含まれる具体的な記述から一般化可能な抽象化された内容つかむという読みの実践に子どもたちは慣れていないことが分かった。



プラごみに関する事前学習では、マイクロプラスチックによる公害について現在わかっていることを大学教員が紹介した。また、当時ドイツ・フライブルク市に滞在中の附属小学校児童とその保護者をZoomで接続し、日本よりもプラごみへの対策が進んでいる部分についてプレゼンテーションをおこなってもらった。その後、子どもたちが近隣の砂浜から拾ったプラごみを、紙やすりで削ってマイクロプラスチックのモデルを人工的に作成し、それらを顕微鏡で観察したり、水に入れたりして性質を調べた。

さらに後日、水の中に浸かったマイクロプラスチックを取り出すための方法として、(1) 比重によるマイクロプラスチックの収集実験、(2) 篩をつかったマイクロプラスチックの収集実験、(3) 油と砂鉄を使ったマイクロプラスチックの収集実験、などを実施した。写真(右)のノートは、実験(1)を実施したときのものである。PPやPETなどプラスチックの様々な種類の試料を、水の入った器に入れ、その性質を調べ、ノートにまとめてたところである。



左の写真はマイクロプラスチックを子どもたち保育者と共に観察する様子である。普段身近な素材であるプラスチック繊維や油と親和性が高いプラスチックの性質を改めて顕微鏡で見ることで子どもたちの興味関心を高めることができた。

この活動ではこれらの目で見て触れてできることに並行して、ウェブサイト上にプラスチックに関する記事集を設定し、子どもたちのプライバシーを守りつつ、どの子どもがいつこれらの記事を参照したか記録をとっていった。

しかしながら、この活動では、子どもたちの探求活動と読解活動とを有機的に関連付けることができていると考えられない。この活動では、読解を進める必然性が十分に設定できておらず、読解活動と探求活動がそれぞれ別に進んでいたことが課題として残された。

実践③ 愛媛大学教育学部附属小学校

附属小学校での読解活動に関する実践では、上の実践①と②の実施を通して見えてきた読解力向上のための教材・教具の活用における課題を解決すべく、それらの改善を以下の通り積極的に進める

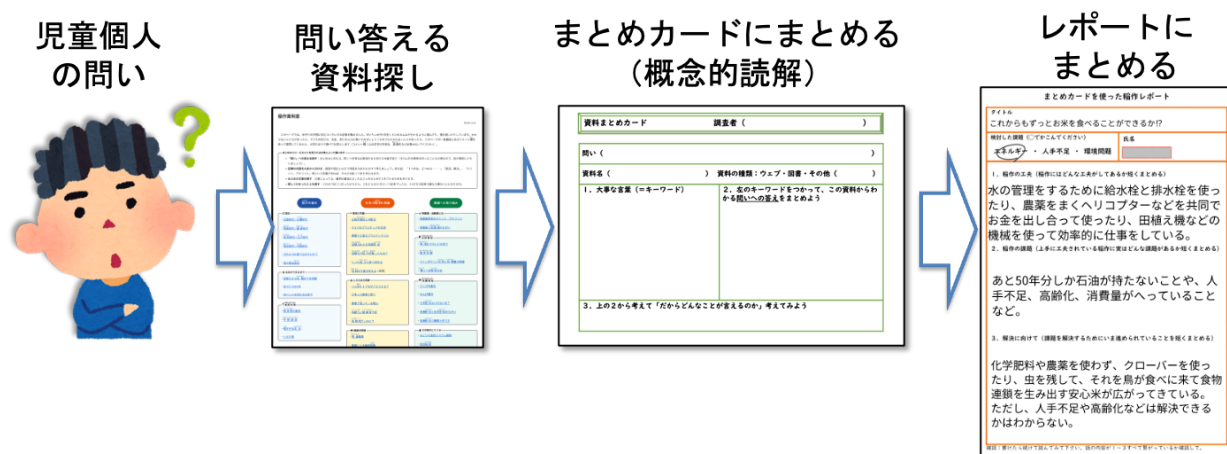
こととした。

実践の背景 愛媛大学の附属5校園では、共通理念「未来を拓く力の育成」を掲げている。教育学部附属小学校はその方向に沿って現在、研究主題「子どもが創る『探究的な学び』」をデザインする」を設定している（現在、3か年研究の1年次）。本研究では、社会科教育の研究を特に進めている5年花組の品川教諭の協力を得て、「稲作」及び「自動車工業」をテーマとした社会科及び総合的な学習の時間を使って展開される探究的な学びに、概念的読解を組み込んだ調べ学習の効果を検討した。

この実験校の社会科教育研究グループでは、「社会とつながり、問い続ける子どもの育成」という研究主題を設定し、これからの社会のあり方を当事者として捉え、地域や社会の「ややこしさ」に對峙しつつ、自らの貢献や関わりへと思いを巡らせることのできる子どもを育もうとしている。そのための重要な契機として外部人材との交流が想定されており、外部の専門家や当事者のリアリティのある語りや独自の最新知見に触れることが子どもたちの学びを深めていくと考えると共に、外部人材との交流が最大限に効果を発揮できるよう授業デザイン方針を検討している。

その取り組みの具体的な授業設計の方針の1つが「ツーステージモデル」である。その名の通り2つのステージから単元を構成するが、ステージ1では、その社会的課題がなぜ課題となるのか、その背景について学んでいく。ステージ2では、その解決の難しい課題や変化などの解決策に学びながら、社会的課題や未来の有り様についての考察を深めていく。別の言い方をすれば、ステージ1で教科書で扱われる一般的な内容をしっかりと定着させ、ステージ2でその基礎を活かしつつも前半の学びと矛盾するような事実や最新の動向に外部人材を通して出会わせる。そこから社会の「ややこしさ」に直面しながらも、自分なりの現状理解や問題解決への見通しを、調べ学習を通して見つけていくという運びが想定されている。

下図は、ステージ2後半の調べ学習のプロセスを模式図にしたものである。



概念型読解のための副教材作成 上述のような現実社会の「ややこしさ」を真正面から捉える授業は児童にとって真正の学びを促すものである。その一方で、この「ややこしさ」は児童にとっても、また多くの大人にとっても、問題に取り組む際の基礎となる問題理解を進めるための知的リソースの不足が問題となる。特に児童にとっては、年齢相応の語彙や難易度を備えたニュース記事を見つけることは容易ではない。児童の年齢層のための資料は、教科書や資料集のほかに図書館にも多くの図書が閲覧可能な状況にあるが、外部人材が取り組んでいる最新の事情はそもそもまだ大人向けのものすら出版されていない場合が多い。

そこで本研究は、下図のようなウェブ資料ページを「プラごみ」、「稲作」、「自動車工業」について作成し、附属小学校や地域の児童クラブにおける探究的な学びで活用した。これらはウェブ記事

のリンク集という体をなしており、小学5年生が読むことのできるウェブサイトが見つかった際にはリンクのみを掲載し、それ以外のものについては児童の年齢に合わせて内容を全面的に書きくだし、参考にしたウェブページへのリンクを掲載した。

このページの上部には記事を読む際のコツを掲示している。また、これらウェブ資料集は、ウェブアプリとしての機能も備えており、ログインして閲覧することによってどの登録児童がどの記事を何時に閲覧したかという情報を収集することができる。児童を登録する際には、個人を特定しえないユーザー名で登録しているため、たとえウェブアプリに記録されたデータが漏洩したとしても個人情報情報の流出にはならないようにした。さらに、ページの最下部には、掲示板を設定し、児童からの記事作成の要望や質問などを受け付け、随時回答した。必要と判断した場合には新しく記事を付け加えた。

稲作資料室

2022.12.02

このページでは、米作りの学習に役立ついろいろな記事を集めました。だいたい小学5年生くらいのお友達が分かるように選んだり、書き直したりしています。わからないところがあったら、クラスの友だち、先生、周りの大人に聞いてみましょう！それでもわからないことがあったら、このページの一番最後にあるコメント欄を使って質問してくれたら、大学のほうで調べてお答えします（コメント欄にはお名前や学校名、連絡先などは書かないでください）。

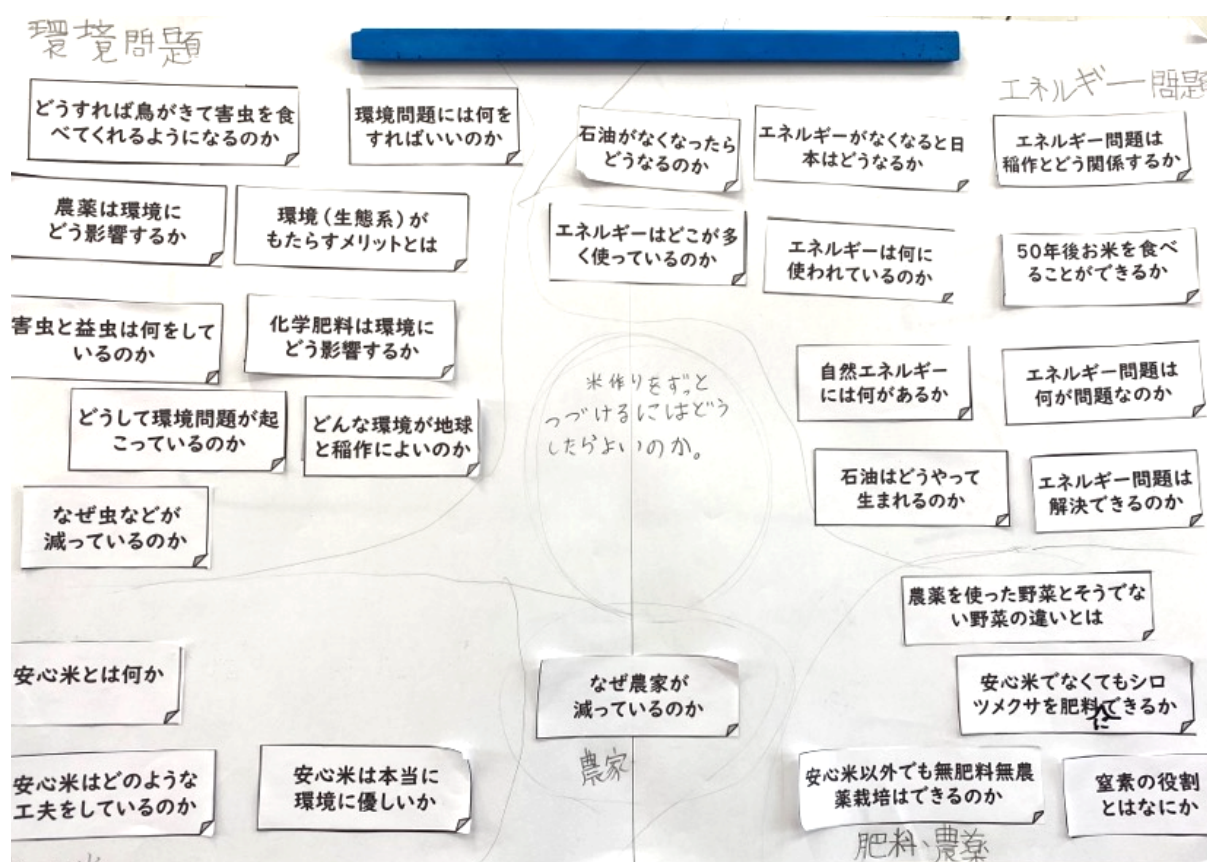
まとめのコツ：どのコツを使うかは文章によって違います

- ・「問い」への答えを探す：まとめるときには、問いへの答えに関係するものだけを選びます（それ以外の興味を持ったことも大事なので、別の場所にメモしましょう）。
- ・記事の内容を大まかに分ける：段落や見出しなどで内容を大まかに分けて考えましょう。例えば、「1つめは、2つめは・・・」「原因、解決」、「メリット、デメリット」等という言葉があれば、それらを使ってまとめられます。
- ・まとめの文章を探す：文章によっては、最初か最後にだいたいなことをまとめてくれているものもあります。
- ・新しくわかったことを探す：これまでは〇〇だったけれども、これからはXXだという記事でしたら、XXがその記事の最も大事なことになります。

稲作の基本	日本の稲作の課題	課題への取り組み
<p>◎歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石器時代～古銅時代 ・鉄器時代～鎌倉時代 ・室町時代～江戸時代 ・明治時代～令和時代 <p>・どのように食べられていた？</p> <p>・量の害虫選出</p>	<p>↑環境の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性との関係 ・マイクロプラスチックの選出 ・農家から出るプラスチックごみ ・温暖化による高温障害 ・温暖化で稲作が難しくなる？ ・リンの減少と海への選出 ・肥料の今後を考える（事例） 	<p>✓無農薬・減農薬とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無農薬野菜のメリット・デメリット ・無農薬と減農薬のちがいは？ <p>自然栽培</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境にやさしい米作り ・雑草対策 ・ジャンボタニシ対策と収量確保の問題 ・驚くべき除草方法
<p>★お米ができるまで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植えから収穫までを体験 ・米づくりの1年 ・おいしいお米になるまで 	<p>▲人の生活の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメ余り！？なぜ？どうする？ ・日本人の食事の変化 ・農家が減っている理由 ・高齢化と後継者不足 ・後継者がいない？ 	<p>🔍有機栽培</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイガモ農法 ・れんげ農法 ・化学肥料はいけなの？ ・有機肥料と化学肥料のちがいは？ ・有機肥料の種類と作り方
<p>🚫被害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除草剤の散布 ・中耕除草 ・稲を守る昆虫 <p>いもち病</p>	<p>♥健康の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残薬農薬 ・農薬による健康被害 	<p>🌾その他のとりこみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどりの食料システム戦略 ・特別栽培

概念型読解導入のための教具利用 今回研究対象とした授業単元は「稲作」も「自動車工業」も、エネルギー、公害、労働人口、ICTなど、多岐にわたる問題領域と繋がっているテーマである。そのため、調べ学習は勢い様々な方向へと拡散していきがちである。特に品川教諭の授業では、それぞれが個別の問題意識や問いを持っている。そのため、個別の考えを大事にしながらも、教室にいる仲間と考えの共通性や違いがどこにあるかを明確にした上で調べ学習に臨む必要がある。

下図はその手立ての1つとして稲作の単元で実施した付箋ワークの成果物である。それまでの活動で児童から出された問いを予め付箋として各グループに配り、自分たちの関心がどのようにカテゴリー化されるかを検討した上で、共通の問いをどのように設定できるかディスカッションした。以下の写真は、クラスの1つの班で実際に作成されたものである。自分たちの問いが「環境問題」「エネルギー問題」「農家」「肥料・農薬」「安心米」というカテゴリーに分けることができ、それら異なる興味関心に共通する問いとして「米作りをずっと続けるにはどうしたらよいか」という結論に至った。



この付箋ワークのあと、児童は自分の特に関心のあるテーマを選び、それに関連する資料を図書館やウェブ、学級図書、あるいは地域や家庭にある資料等から探し出し、資料まとめカードにわかったことをまとめる(以下の図の通り)。この資料まとめカードは、調べ学習で子どもたちが1つの図書や記事を概念的理解のかたちでまとめるために用意された。上述のように概念的理解は、概念と概念の関係を精緻化して作成されるということから、左側には「1. 大事な言葉(=キーワード)」を示し、右側にはそれらを組み合わせて、当該資料の中心的な内容を要約するような構造になっている(「2. 左のキーワードを使って、この資料から分かる問いへの答えをまとめよう」)。シート下部には、「3. 上の2から考えて『だからどんなことが言えるのか』考えてみよう」と書かれた欄が設けられ、概念的理解作成ステップの最後に対応している。しかし、この最後の欄はスキップしてよいと指導した。

資料まとめカード		調査者 ()	
問い ()			
資料名 ()		資料の種類: ウェブ・図書・その他 ()	
1. 大事な言葉 (=キーワード)		2. 左のキーワードをつかって、この資料からわかる問いへの答えをまとめよう	
3. 上の2から考えて「だからどんなことが言えるのか」考えてみよう			

以下は、品川学級において資料まとめカードの導入授業で利用された資料である。サンプルの記事を2種類用意し、1つは全体授業で一緒に進め、もう1つの記事はそれぞれ個別に取り組んだ。

今日の授業

1. 「資料まとめカード」はなぜ必要?
2. ウェブサイトの紹介、ログイン
3. カードにまとめる手順
4. カードにまとめる練習
 - a. 個人練習
 - b. グループ練習 (できるようにしたら)

1

ウェブサイトへのログイン

2

資料まとめカードに書く手順

- ① 問い (知りたいこと) を書く
- ② 問いに答えられそうな資料を選んで資料名を書く
- ③ 読んで大事な言葉 (キーワード) を見つける
- ④ キーワードの関係を説明する

3

①問い (知りたいこと) を書く

- 練習: 問い (知りたいこと) を選んで、まとめカードに書き込む
 - 今日は練習のために下の2つの問いを用意しました
 - a. 環境にやさしい稲作にはどんな種類があるの?
 - b. 自然栽培は手間がかかる?

4

②問いに答えられそうな資料を選んで資料名を書く

- みなさんが調べ学習するときには、ウェブサイトや図書などから自由に選んでください。
- 今回は練習なので下の資料名を書き込んでください。
 - 自然栽培米、有機栽培米、無農薬米の特徴
 - 自然栽培米を生産する平田真佐光さんの除草の工夫

5

資料まとめカード 調査者 (みなさんのお名前)

問い (環境にやさしい稲作にはどんな種類があるの?)

資料名 (自然栽培米、有機栽培米、無農薬米の特徴) 資料の種類: ウェブ・図書 **その他 (プリント)**

1. 大事な言葉 (=キーワード) 2. 左のキーワードをつかって、この資料からわかる問いへの答えをまとめよう

- ① 自然栽培米
- ② 有機栽培米
- ③ 無農薬米
- ④ 自然の力
- ⑤ 農業
- ⑥ 化学肥料

3. 上の2から考えて「だからどんなことが言えるのか」考えてみよう

6

③読んで大事な言葉を見つける (キーワード)

- 一人ひとりで資料を読みましょう
- わからない言葉は教室の先生方に聞きましょう
- 一通り読んだら、大事だと思う言葉に下線を引く
- 特に大事なキーワードを3~6個ほど選んで、資料まとめカードに書き込もう

キーワードってどういうの?

- 大事なこと一言でまとめた言葉
- いま問題となっていることを示す言葉
- この問題を考える時に何度もできそうな言葉
- 人の名前や商品名ではないものと
- 具体例ではないものと

7

④キーワードの関係を説明する

- キーワードを使って問いへの答えをまとめよう
 - 例1) 「AにはBとCがある」「AはこれまでBだったが、これからはCだ」「〇〇をする順番はA、B、Cです」
 - 例2) 「Aの解決にはBが大事」「AはBの原因」「Aが増えるとBも増える」「Aを〇〇するように調節するとBは△△する」

8

どんな答えになりましたか

- 環境にやさしい稲作にはどんな種類があるの?
- 自然栽培は手間がかかる?

9

資料まとめカード 調査者 ()

問い ()

資料名 () 資料の種類: ウェブ・図書・その他 ()

1. 大事な言葉 (=キーワード) 2. 左のキーワードをつかって、この資料からわかる問いへの答えをまとめよう

- ① ○○○
- ② ○○○
- ③ ○○○

3. 上の2から考えて「だからどんなことが言えるのか」考えてみよう

10

さいごに

- これからも皆さんの調べ学習を応援しています!
- みんなから考えをきかせてほしいこと
 - 資料をまとめるとき、その資料の種類によって、よいまとめ方は違ってくると思います
 - まとめる中で気づく以下のことを今度教えてください
 - A) 資料にはどんな種類があるのか
 - B) 種類ごとにどんなまとめ方がいいか

11

資料まとめカードをつくる時のコツ

- 「キーワード」を探すとき
 - 1つの場所や時間をこえた言葉をさがす
 - 例) ○「平野」、X「庄内平野」
 - 例) ○「減農薬栽培」、X「安心米」
 - 理由や結論になる言葉を探す
 - いま考えているテーマに一番大事な言葉だけを探す
 - いい言葉がないときには自分たちでいい言葉をつくる
- 「資料から言えること」をまとめるとき
 - キーワード同士の関係がどうなっているか考えて、自分の言葉で関係について説明する
 - 資料の本文からまとめの文をつみつけてそのまま使う

12

調べ学習1：稲作単位における概念型読解 上述のとおり、資料まとめカードを作成したのち、児童がそれぞれ持つ問いに対して答えを出すべく、調べ学習を進めた。その後、資料まとめカードで整理したことに基づいて、レポートを作成した。資料まとめカードの「2. 左のキーワードを使って、この資料から分かる問いへの答えをまとめよう」への回答が、概念型読解パフォーマンスのアセスメント資料として利用された。下表は、それらの回答について評価するためのルーブリック案である。ルーブリックの最上段は、概念型読解が遂行できている段階を示している。上から2番目は概念的な読解を示す証拠は得られているが、問いに答えていない等の不備が見られるものである。上から3番目は内容を短く要約しているもの、まとめには概念よりも事例や具体が中心に利用されているものである。一番下の段階は、記事が扱っている内容を網羅的にカバーしようとしているものであり、概念的理解からは最も遠い認知的プロセスであると言える。

このルーブリックを用いた、児童の概念型読解のパフォーマンス評価については、稲作の単元の後に実施された自動車工業の単元での結果と合わせて、のちほど分析する。

評価	評価規準	例
問いに答えている抽象レベルの要約	抽象レベルで要約し、かつ問いに答えうるものとなっている	問：農業や化学肥料は環境にどう影響するのか 化学肥料を大量に使続けると、土が弱くなった時、土壌生物や微生物が減ってしまう。土が弱くなると作物も力を失い、病気にかかりやすくなってしまふ。また、土の中に成分が残ると、環境に影響を与えてしまふ。硝酸態窒素という形で海などに流れ込むと、砂潮の原因にもなる。これが作物に残ると、人線に入り、病気などを起こしてしまふ。
問いに答えていない抽象レベルの要約	抽象レベルで要約しているが、問いに答えていない	問：害虫がもたらすことと益虫がもたらすことは何か 害虫は大体が、稲の葉や茎から汁を吸って枯らすことで、益虫は飛ぶ虫、水中の虫の2つに分かれていることが分かりました。
事実レベルの要約	要約しているが、事実レベルにとどまっている	問：どんな環境が地球と米作りによいか バルシステムによって、コアフード米が作られ地球の環境によく、米作りにも、よく、他にも、アイガモ農法なども環境に良いみたいです。
要約していない	文章全体が重要であると判断している	問：エネルギー問題は解決できるのか のりんごの生産や加工で使っているリンのはほとんどは、地下資源しげんやからリン鉱石から採掘されています。自然でリンを採掘できなくなると、畑や工場などリンが必要ですが、もし、人がリンを産出するまで、利用した後に海に溶かしければ、やがてなくなってしまう。リンが少ない状態であるということは、世界も気づいています。世界中で海からリンを採掘するアメリカは、2040年にリン鉱石の輸出を止め、輸入するようになります。自分の国の資源を守ることに目的です。こうした動きは、リン鉱石がとれる国であるモロッコなどにも広がっています。また、この流れによって大きな影響を受ける国の一つが日本なのです。日本は世界で唯一リンを消費している国にもかかわらず、日本ではリン鉱石があまりとれません。昔は主にアメリカから輸入していましたが、アメリカが輸出しなくなったことから、現在は中国や南アフリカなどからの輸入に頼っています。しかし、こうした国もいつアメリカのように輸出をやめてしまふことがありません。

調べ学習2：自動車工業単位における概念型読解 稲作と同様に、ゲストティーチャーを活用しての授業で自動車工業の最新事情に触れたあと、ウェブ資料集を作成してそれぞれの設定した問いへの答えを求めて調べ学習を行った。レポート作成において、資料まとめカードを使って進めた概念的理解を統合するために、レポート作成のときにつかった資料まとめカードとの対応づけを求めると変更した。利用する資料まとめカードは児童自身のものだけではなく、他の児童が作成した資料まとめカードを印刷して利用することで、他の児童が進めた概念的理解を自身の理解へと取り込むことができ、幅広い知識領域を他者と共同でカバーすることができるようになっている。

上述の概念型読解をパフォーマンス評価するためのルーブリックを用いて、概念的読解のパフォーマンスの分布を示したのが下表である。この表では、児童が作成した資料まとめカード数枚のうち、最も概念的読解の水準が高い欄に「1」を入力した。表の左半分が稲作単元で作成された資料まとめカードを分析した結果を示しており、右半分が自動車工業単元において対応する結果を示している。また表の上部に示された割当(%)は、それぞれの評価カテゴリーに相当する児童が、クラス31名全員のうち、おおよそどの程度を占めるか示している。2つの単元でその結果を比較したとこ

ろ、問い答えている形で内容を抽象的にまとめている児童は 48%から 58%に増加している一方、読解内容を羅列して要約をしていない児童の下図は 10%から 0%に減少していることが読み取れる。しかしながら、自動車工業における資料まとめカードで観察されるようになったのが、簡単過ぎる要約である。抽象的にまとめることには成功しているが、記事で伝えられている内容の中核部分が略されている場合にこのカテゴリーを割り当てた。簡単過ぎる要約に該当する児童は、稲作単元では一人も見られなかった一方で、自動車工業単元では 2 名観察された。

単元	稲作					自動車工業				
	割合	10%	23%	0%	3%	48%	0%	19%	6%	3%
番号	要約なし (羅列)	事実の 要約	簡単すぎる 要約	問いに答え ていない抽	問いに答え ている抽象	要約なし (羅列)	事実の要 約	簡単すぎる 要約	問いに答え ていない抽	問いに答え ている抽象
1					1					1
2		1					1			
3					1					1
4					1			1		
5					1					1
6					1					1
7		1								1
8					1				1	
9	1									1
10		1								1
11		1					1			
12					1					1
13					1					1
14										1
15					1					1
16		1					1			
17					1		1			
18					1					1
19					1					1
20		1								1
21					1					1
22					1					1
23					1		1			
24	1									1
25					1					1
26	1							1		
27		1								1
28							1			
29										1
30					1					1
31					1					1

上述のように、自動車工業の単元ではレポートをまとめる際に、新しく資料まとめカードとのつながりが明確になるように働きかけをおこなった。下の写真は、対象学級の児童 A がまとめたレポート

まとめカードを使った自動車工業レポート

5年(花)組 (児童 A)

資料まとめカード 調査者 (児童 A)

問い (CO2を減らすためにどうしたらいいのか)

資料名 (自動車工業資料室 環境・リ) 資料の種類 (ウェブ・図書・その他 (資料室))

1. 大事な言葉 (キーワード)

- 車の軽量化
- 空気抵抗を低減
- 効率の良いエンジン
- CO2
- エネルギー

2. 上の2から考えて「だからどんなことが考えられるのか」考えてみよう

タイトル

これからも自動車工業を続けていけるのだろうか。

検討した課題

石油 CO2 地球温暖化 再生可能エネルギー 電気自動車 その他 ()

1 自動車工業の工夫 (日本の自動車工業には、どんな工夫があるか短くまとめる)

お客様の注文を受けてからはやく届けるために、コンベヤーやロボットを使って、関連工場ともかかわって自動車を作っている。お客様のニーズ、社会のニーズも考えて作っている。

2 自動車工業の課題 (自動車工業の課題を分かりやすくまとめる)

- 石油があと50年分しかないこと。
- 地球温暖化が進んで生き物が死んでしまうこと。
- 電気自動車でも、ライフサイクル全体では結局CO2を排出してしまうこと。(それで地球温暖化が起ころう)
- 再生可能エネルギーが広まっていないこと。(まだ火力が多い)
- リチウムイオンバッテリーを作るのにエネルギーを大量につかっていること。

3 解決に向けて (課題を解決するために今進められていることを短くまとめる)

エネルギーの使用量を減らすために、車を軽量化したり、空気抵抗を低減したり、効率の良いエンジンを使ったりしている。また無馬心に速度を出したりブレーキを踏んだりせずに運転するエコドライブをしたり、再生可能エネルギーの普及が進められている。

資料まとめカード 調査者 (児童 C)

問い (CO2は、どのようなところで出るのか。また、CO2排出は、どうすれば減らせるのか。)

資料名 (自動車工業資料室 環境・リ) 資料の種類 (ウェブ・図書・その他 (資料室))

1. 大事な言葉 (キーワード)

- 軽量化
- 空気抵抗

2. 上の2から考えて「だからどんなことが考えられるのか」考えてみよう

自動車工業は、少しでもCO2が減らせるようにいろいろな工夫をしている。

資料まとめカード 調査者 (児童 B)

問い (CO2はどのように減らすのか)

資料名 (自動車工業資料室) 資料の種類 (ウェブ・図書・その他 ())

1. 大事な言葉 (キーワード)

地球温暖化 CO2 エコドライブ

2. 上の2から考えて「だからどんなことが考えられるのか」考えてみよう

2. 上のキーワードをつかって、この資料からわかる問いへの答えをまとめるよ

車を軽量化したり、車が軽ければそれを動かすエネルギーも少なく済むから。空気抵抗を低減したり (空気抵抗が多いとそれだけエネルギーをたくさん使うから)、効率の良い (燃費が良い) エンジンを使うことでCO2を減らすことができる。

CO2を減らすにはエコドライブで無駄に速度を出したりブレーキを踏んだりせずに運転する、エアコンを適切にきせつて使う、いろいろな荷物を積まないような環境に優しい運転をする

資料まとめカード 調査者 (児童 D)

問い (CO2削減のためにしていること)

資料名 (自動車工業資料室) 資料の種類 (ウェブ・図書・その他 ())

1. 大事な言葉 (キーワード)

- 再生可能エネルギー
- エコカー
- カーシェアリング

2. 上のキーワードをつかって、この資料からわかる問いへの答えをまとめるよ

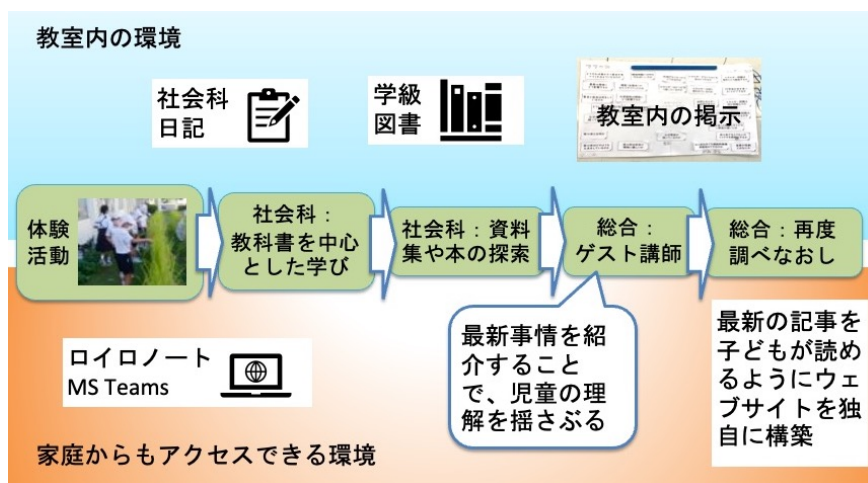
中、世界は再生可能エネルギーの普及をしようとしている。リチウムイオン電池や電気自動車、燃料電池車の開発を速行したりカーシェアリング (車を共同で使う) などをしてしりりと脱炭素に向けて色々な取り組みをしている。

3. 上の2から考えて「だからどんなことが考えられるのか」考えてみよう

世界は今CO2削減のために色々なことに取り組んでいる！

の例である。作成に利用した資料まとめカードは、児童 A 本人が作成したものが1点のほか、児童 B、児童 C、児童 D が作成したものがそれぞれ1点である。自動車工業を取り囲む様々な問題の1つである、二酸化炭素排出の問題について自動車企業が進めている努力、個人で取り組むことのできる工夫、社会で進められている再生可能エネルギーの開発など、幅広い問題について理解が統合されているのを見て取ることができる。

対話的で深い学びを支える文脈 当該クラスでは、5年生になってから品川教諭が担当しているが、普段より社会科では「社会科日記」を継続的に書く機会を設けて、個人の気付きや学びを日々書き溜めている。それに加えて、ロイロノートやMicrosoft Teams では、学びの感想や疑問などを他の児童が見える形で、授業時間に関わらず、学校が終わって家庭からも書き込みあう様子が見られる。また、教室内では当該単元が進む間、座席からよく見えるように学んだこと、調べたことが掲示されていて、授業中の発表でもその掲示物に対する言及が見られた。このような様々な言語的活動が、児童が自己関与を高く持ちながら問いを深めていく基盤を構成していると考えられる。以上のことを端的にまとめたものが下図である。



対話的で深い学びの背景にある学習履歴 当該小学校は、スタートアップカリキュラムとして特に生活科に力点を置いている。生活科の研究では、子どもの思いや願いを大切に受け止め、それらを実現する過程のための学習環境がデザインされている。それに続く、中学年の段階では質の高い探求の学びが積み重ねられてきた。今回、授業をおこなった5年花組の探究的態度は、そのような実践の積み重ねの上に、さらに品川教諭が地域や社会とのつながりを継続的に作り、自分の考えを社会科日記やオンラインツールの活用が功を奏したものであると言える。

これらの学習履歴の成果の表れの1つとして、ゲストティーチャーの発言を聞いてもそれに流されることなく自分の考えを大事にし続けている様子が見て取れることができた。また関連して、高学年では得てして男子が女子に遠慮しながらになるところが、当該クラスでは男子が特に遠慮なく、言いたいことが言えている様子も見て取ることができた。

授業のあり方について 本授業の課題としては、主に4つ挙げることができる。1つ目の課題は、概念型読解の進め方を学ぶ際により豊富で個別の状況に応じた足場かけが必要なことである。概念的な理解として読解を進めるということは児童にとって不慣れなことである。同時に、児童は様々な具体的な体験に単元を通して出会っている。そのため、具体的な事象に着目したり、資料から中心的な内容を少数取捨選択することは容易なことではない。物事を概念的に理解するようになるためには、長い時間を要するため、個別の足場かけが必要であると考えられる。国語については特に、現在

日本の学校では、1つ1つの作品を理解することに力点が置かれ、テキストを構造として捉える授業の取り組みはまだ十分に進んでいない。事実をしっかりと掴もうとする国語の授業に慣れ親しんだ児童の学習習慣のアンラーンを支えることも重要である。

2つ目の課題は、上記のことと密接に関係して、他の教科との連携が必要ということである。社会科だけではなく、国語、算数、理科、外国語、技術、家庭科、図画工作、保健体育、音楽などあらゆる科目において概念的理解は適用可能である。徐々に概念的探求の授業を日常の学びに取り入れることで、概念型読解の力量はより効果的に修得されるはずだと考えられる。ただし、このことは学校の全ての授業が概念型であることを示唆するものでない。概念的理解が求められる場合もあれば、反復練習や暗記、資料や作品を準備するための単純作業も授業には含まれるはずである。

3つ目の課題は、今回の授業は、一般的な探究型の授業づくりとしつらえが大きく異なるため、他の教師がそのまま真似ることが難しい可能性が高い点である。稲作や自動車工業にそれぞれの道の現役の専門家を教室に招いて、児童に揺さぶりを与えるような機会を設けるにはそれ相応の準備とリソースが必要である。ただし、今回開発したウェブ上の資料や資料まとめカードはどの日本の学校でも活用することができる。

4つ目の課題は、児童中心であると同時に到達目標が明確であるという CBI の特徴をどのように受容していくかということである。今回の単元設計では、現代の農業や工業の抱える問題の「ややこしさ」に直面してもなお、それらに対して児童が自分のなりの考えを持ったり、あり得る解決の方向について積極的に考えを進めたりといったことが期待されていた。総合的な学習の時間としてはこのような学習目標のあり方は適切であると考えられるが、社会科の領域的知識に関する概念的理解という観点では、授業を計画した段階から予め明確であったという訳でない。このことはより広い文脈で言えば、「逆向き設計」で授業づくりをしていくことが、教師コミュニティの中で受容され、当たり前のことになっていく必要があることを示唆している。このことは同時に、概念的探求が想定する6つの学習段階で言えば、最後の転移段階として、学習の成果が地域社会にコミットするようなものであることを、授業設計の最初の段階から想定していくことで実現していくものと考えられる。今回の自動車工業の単元でいえば、現在の自動車工業をめぐる様々な問題と現時点で考える解決の方向性をまとめた上で、松山市の自動車利用をどう変化させていくことが必要かという政策提言としてまとめ、授業に関わった様々な外部人材を含めて地域に発信していくことを最終ゴールとして児童に提示することで、児童の学びはさらに促されたかもしれない。

引用文献

- Lanning, L. A., & Brown, T. (2019). *Concept-Based Literacy Lessons: Designing Learning to Ignite Understanding and Transfer, Grades 4-10*. Corwin Press.
- Marschall, C., & French, R. (2018). *Concept-based inquiry in action: strategies to promote transferable understanding*. Corwin Press.
- Erickson, H. L., Lanning, L. A., & French, R. (2017). *Concept-based curriculum and instruction for the thinking classroom*. Corwin Press.
- Wiggins, G. P., & McTighe, J. (2005) *Understanding by design*. ASCD. (ウィギンズ, G. P., マクタイ, J. (西岡加名恵 訳) (2012). *理解をもたらすカリキュラム設計: 「逆向き設計」の理論と方法* 日本標準)

2. 効果検証内容・結果

(1) 効果検証のための指標

No.	検証のための指標	実施主体	具体的な検証内容
1	概念型読解パフォーマンス	愛媛大学	11月及び2月におこなった調べ学習において「資料まとめカード」に記述した内容より、児童の概念型読解パフォーマンスに関するアセスメントをおこなう。

(2) 指標に関するデータの取得方法（時期、回数等）

No.	検証のための指標	データ取得の時期、回数等
1	ウェブ閲覧ログ	11月より随時収集
2	概念型読解ルーブリック	11月及び2月に記述した資料まとめカード

(3) 検証の際に比較の対象とする学校等

取組実施校	比較対象校等	比較対象とした理由
愛媛大学教育学部附属小学校	児童クラブさくらんぼ 愛媛大学放課後学習教室	附属小学校で実施している取組が公立小学校に通う児童を預る児童クラブにおいても同様に実施可能かつ教育効果をあげることができるか検討するため。
計1校	計2校	

3. 考察（本研究が学力向上のために有効な取組であるといえるか）

本研究は以下の点で学力向上のために有効であると結論づけることができる。

- (ア) **概念型探求の導入**：概念的探求の理論的枠組に沿ったカリキュラムと指導法の概要を明らかにしたことで、読解力を含む言語活動を基盤として、様々な教科を横断した知識やスキルを永続的に理解するための授業設計に貢献しうる知見を提供した。
- (イ) **概念型読解の提案**：概念的探求を援用して、概念型読解を新しく提案したことで、探求的学びを支える読解の力量を明確化し、ルーブリックによって測定することができるようになった。
- (ウ) **概念型読解を支える教材・教具の開発**：概念型読解への取り組みを促進する教科横断の探究的な単元に必要なウェブ資料集や調べ学習で用いる資料まとめカード等を開発した。
- (エ) **探求的な学びを通じた概念型読解能力の向上**：探求的な学びにおいて概念型読解を促す要約活動を反復的に繰り返すことで概念型読解の力量が伸びることが確認された。

4. 課題

本調査研究の課題 以下のことが課題として残されている。

- ・ 概念型読解を愛媛大学教育学部附属小学校の他の学級でも展開し、数年間を通した子どもの読解力向上プロセスを検討すること
- ・ 概念型読解を公立学校のカリキュラムに組み込み、数年間を通した子どもの読解力向上プロセスを検討すること
- ・ 現職教員や教員志望学生が概念型探求の理論的理解とその実践力を伸ばすための学びの機会を設けること

今後取り組むべき方向性 上記の課題に今後取り組むためには、学校の教育課程のあり方を再検

討し、概念型探求を始めとした理論的枠組を学年団、学校全体、あるいは教育委員会全体で受容することが必須となる。そのためには、本調査研究を実施した愛媛大学のような地域教育を担う大学が、一方的な教員研修ではなく、教師の実践が確実に変わり、子どもの学びが変わり、学校が変わり、地域が変わったことを質的データによって長期的に示していくような根気強い取り組みが必要となる。

我が国は戦後、民主主義教育の浸透を進めてきたが、この新しい教育は生活にそれほど浸透することなく、民主主義は多数決原理や平等主義への矮小化され、一人ひとりが市民として社会に貢献するという側面では未だ課題が多く残るのが実情であろう。このことが例証するように、新しい理論的枠組は受容されること自体が高度に困難であり、時間を要する。このことを真正面から捉え、ゆっくりとした人の学びに効果的な足場かけを考案し、教育改革に寄り添った取り組みを着実に粘り強く続けていくことが教員養成大学に求められていると言える。

5. 今年度の研究経過

月	内容
4月	契約締結、連携先との打合せ、ウェブ教材開発（以下1月まで継続）、ボランティア・アルバイト学生の確保、教育実践（放課後学習教室、土曜学習）
5月	教育実践（放課後学習教室、土曜学習）
6月	探求カリキュラム実践、第1回国際バカロレア専門委員会、連絡協議会
7月	教育実践（放課後学習教室、土曜学習）
8月	教育実践（放課後学習教室、児童クラブ）
9月	教育実践（放課後学習教室、附属小）
10月	教育実践（放課後学習教室、附属小）
11月	教育実践（放課後学習教室、附属小）、実地調査、第2回国際バカロレア専門委員会
12月	教育実践（放課後学習教室、附属小）
1月	教育実践（放課後学習教室、附属小）
2月	教育実践（放課後学習教室、附属小）、第3回国際バカロレア専門委員会、事業成果報告会
3月	研究報告書提出

6. 研究関係者

(1) 学力向上推進協議会構成メンバー

所属	氏名
淑徳大学	御手洗明佳 准教授
灘中学校・灘高等学校	井上志音 教諭
早稲田大学本庄高等学院	赤塚祐哉 教諭
筑紫女学園大学	稲田八穂 教授
松山市立味生第二小学校	高岡遼介 教諭
一般社団法人コミスクえひめ	西村久仁夫 代表理事
NPO 法人 NEXT CONEXION	越智大貴 理事
社会福祉法人エリム会	池内 悟 理事長

(2) その他関係者

所 属	氏 名
愛媛大学教育学部附属小学校	城戸茂 教授・校長
愛媛大学教育学部附属小学校	桐山真美 副校長
愛媛大学教育学部附属小学校	檜垣延久 教諭 研究部長
愛媛大学教育学部附属小学校	品川崇 教諭
愛媛大学教育学部	小助川元太 教授・学部長
愛媛大学教育学部	露口健司 教授・教育学研究科教育実践高度化専攻専攻長
愛媛大学教育学部	白松賢 教授・愛媛大学教職総合センター長
愛媛大学教育学部	苅田知則 教授・附属インクルーシブ教育センター長
愛媛大学教育学部	大西義浩 教授・附属中学校長
愛媛大学教育学部	福井一真 准教授
愛媛大学教育学部	藤田昌子 教授
愛媛大学教育学部	竹下浩子 准教授
愛媛大学教育学部	井上昌善 准教授
愛媛大学教育学部	藤原一弘 准教授
愛媛大学教育学部	向平和 准教授
愛媛大学教育学部	上田敏子 准教授
愛媛大学教育学部	河村泰之 准教授